

～全国安全週間に寄せて～

平成27年6月23日

クレーン等災害防止大会メッセージ

(一社) 日本クレーン協会 東海支部
支部長 真鍋義弘

本日は、「クレーン等災害防止大会」にご参加頂き有難うございました。

今年も7月1日から全国安全週間が展開されます。今回の週間スローガンは、「危険見つけてみんなで改善 意識高めて安全職場」です。

東海支部は、昨年「残留リスク通知情報のモデル」(リーフレット)を作成しました。今年は、引き続きその残留リスクに対する具体的な方策を研究することとしています。これらの活動等は、正にスローガンの趣旨に沿い、みんなで危険を見つけ、改善を図って安全職場を目指すものと考えています。

さて、昨年発生した愛知県下におけるクレーン等による死亡災害は、9人となりました。それ以前の死亡者数が、平成25年1人、24年2人、23年1人ですので、極めて異常な事態でした。また、休業4日以上を負傷者も含めた死傷者数も対前年比で約30%近くも増加しました。

このため、行政ご当局のご指導を受けながら、度々の広報活動に努め、昨秋に実施した「東海支部創立50周年記念大会」においても「安全宣言」を採択したところです。災害多発の原因や背景には、今、景気回復の多忙な状況下にあつて、産業界の人手不足が顕在化しています。そのような中、クレーン等の使用に当たっての特殊性を考慮した安全管理が疎かになっていないかと懸念されます。

ご承知のとおり、クレーンは人の負荷を減らし安全を高めるために用いられます。しかし、重量物を扱い、かつ自動化などによる本質安全化が困難な作業も多いため、別の危険が伴い、常に緊張感を持った作業が求められています。このため基本的な対策としては、まず、クレーンと周辺機器設備の安全性能等を最新技術の導入等により高めることです。そして作業に当たり、作業計画や作業マニュアル等を定め、これに基づいた安全が適切に管理された作業を、有資格者により日々実践することが重要です。

幸いにして、「安全宣言」後は、クレーン等による労災死亡事故の発生は伺っていません。一先ず歯止めが掛かったようですが、今後もクレーン等に起因する「死亡災害ゼロ」を継続し、休業災害、各種事故も大幅に減少させることを目標として、防止対策を推進しなければなりません。

私どもは、半田市にクレーン教習センターを持ち、資格講習会、研修会を実施しています。センターにお越しになる全ての皆様が、その後の職業人生において、安全な作業を確実に行うことが出来るように、今後も「優しく丁寧に、時には厳しく、全力で」指導に当たって参ります。

また、会員の皆様による安全の実践的な研究と啓発活動により、愛知県下のクレーン等による労働災害や事故の防止に努めて参ります。会員をはじめ本日ご出席頂いた関係する皆様方のこれまで以上のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本日の大会が来週からの全国安全週間の活動等に弾みを付ける機会になる等、ご出席の皆様方の職場が一層の安全とご発展されることを願い、クレーン等災害防止大会のメッセージとさせていただきます。

本日は、有難うございました。